

平成 20 年 6 月 2 日

日本糖尿病教育・看護学会
理事長 嶋森 好子

糖尿病重症化予防に関わる研修についての日本糖尿病教育・看護学会の見解 ーフットケアを実施する看護師および研修プログラムについてー

平成 20 年 4 月から、糖尿病合併症管理料として糖尿病の重症化予防のためのフットケアについて診療報酬が認められるようになった。その施設基準のひとつには、糖尿病足病変患者の看護に従事した経験を 5 年以上有する専任の常勤看護師であって、糖尿病足病変の指導に係る適切な研修を修了した者が 1 名以上配置されていることと明記されている。また適切な研修には、糖尿病患者へのフットケアの意義、糖尿病足病変の病態生理から治療に関する基礎知識、足病変に対する評価方法、フットケア技術、セルフケア支援及び事例分析・評価等の内容や演習が含まれていることとなっている。

本会は、国民の福祉の向上に寄与するべく、この度の診療報酬による評価に対し、すみやかに「糖尿病足病変の指導に係る適切な研修」プログラムを作成し、まず関東と関西で研修を開催し、引き続き同様の内容でブロック単位での研修を行うこととした。生活習慣病の中でも特に糖尿病の悪化を防止することが国民的な課題になっている今日、糖尿病に特化した診療報酬の位置づけを明確にし、実効性を保つために相応しい研修のみを診療報酬要件として認めたものと考えている。

したがって本学会の研修プログラムでは、日本糖尿病学会の認定を受けた専門医から、糖尿病についての医学的な知識を学ぶとともに、糖尿病について専門的な知識と技術を身につけた日本看護協会認定の慢性疾患看護専門看護師もしくは糖尿病看護認定看護師による講義と演習を行うプログラムを組むことにした。演習では、少グループで糖尿病患者の重症化予防のためのフットケアについて、具体的で実践的な演習を計画している。本学会の意向に対し、日本看護協会でも共催で同内容の研修プログラムで実施するという合意を得ている。看護師対象の研修については、本学会のプログラムに準拠していただければ、研修の質は担保できると考えており、営利目的ではなく本学会の研修プログラムを使用していただく職能団体や学会とは、共催したいと考えている。

本学会は、この度の診療報酬の要件として求められた研修は、あくまで糖尿病の重症化予防のためのフットケアの研修である点を明確にしておく必要があると認識している。糖尿病の療養指導に含まれるフットケアは、生活習慣や生活背景と密接に関係しているため、糖尿病重症化を真に予防するためには、フットケアに併せたきめ細やかな療養指導が行える専門性の高い看護師、すなわち糖尿病の知識と技術を十分に持った看護師がフットケアを実施することが望まれる。つまり、いわゆる創傷処置やケアの技術のみではなく、糖尿

病の適切なコントロールのための指導ができる看護師であることが重要であり、糖尿病重症化予防という視点が充分でない研修については、診療報酬の要件に見合った適切な研修とはいえないと考える。よって、この度の糖尿病の重症化予防に特化した診療報酬を認めるための研修の企画にあたっては、糖尿病について専門的な知識と技術を持つ医師および看護師による指導が行われる研修に限って認められるものとする。そうでないと結果的に診療報酬が算定できる施設となった医療機関であっても、適切な糖尿病重症化予防のためのフットケアが提供されず、診療報酬の評価に見合った効果が期待できない可能性があるからである。

一方で急増する糖尿病患者に対し、フットケアを実施する看護師が限られている現状は否めない。予備軍合わせた約 1870 万人（厚生労働省 2006 年国民健康・栄養調査）に対し、日本糖尿病学会認定の糖尿病専門医はわずか 3,702 名（平成 20 年 5 月 2 日現在）、現在、糖尿病看護において、高度な療養支援技術を提供できる慢性疾患看護専門看護師は 17 名、糖尿病看護認定看護師は 146 名存在（平成 20 年 5 月 2 日現在）というように、糖尿病専門医はもとより糖尿病看護を専門に学んだ看護師はごくわずかであり、とても、莫大な糖尿病患者に対応することは難しい。

したがって、5 年以上糖尿病の足病変患者に関わっている実績を持ち、日本糖尿病療養指導士認定機構認定の日本糖尿病療養指導士あるいは厚生労働省医政局看護課による「専門領域（がん・糖尿病）における臨床実践能力の高い看護師の育成強化推進事業」の 40 日にわたる研修等を受講した看護師はもとより、皮膚・排泄ケア認定看護師にも、質が担保された本学会関連研修プログラムによる適切な研修を受けていただき、糖尿病患者のフットケアを実施していただくことを期待している。

糖尿病重症化予防(フットケア)研修

目的 糖尿病患者へのフットケアの意義を理解し、評価方法と実践の技術を身につける

- 目標
1. 糖尿病患者へのフットケアの意義を理解する
 2. 糖尿病患者の足病変の病態生理、治療を理解する
 3. 糖尿病患者へのフットケアのための評価方法を学ぶ
 4. 糖尿病患者へのフットケアの技術を学ぶ
 5. 糖尿病患者の事例検討を通して、フットケアにおけるセルフケア支援を理解する
 6. 予防的フットケアを実践するためのシステム構築について考えることができる

研修日	テーマ	ねらい	内容
1日目 講義1 9:00～10:00	糖尿病患者の療養を支えるフットケア	看護師が行う糖尿病患者への予防的フットケアは、一方的に患者の足のトラブルの有無をチェックし、必要な手当てを提供するというのではなく、患者の糖尿病や足の状態を捉え、と共に、セルフケア状況までも含めた評価(アセスメント)を行ったうえで、その患者に適したフットケアの方法を考え、継続的に実践していくセルフケア支援のプロセスである。このような糖尿病患者へのフットケアの意義を理解する。	1. 糖尿病患者への足への関心 2. 足の状態を共通理解するための働きかけ： 足を見る、足に触れるということ 足を見るのを促す、足に触れるのを促すということ 3. 足のケアを通して患者の生活を理解すること 4. 療養を支えるフットケア～継続していく大切さ
講義2 10:10～12:10	糖尿病患者の足病変～病態生理から治療まで	糖尿病患者の足病変 病態生理、治療を理解する	糖尿病足病変の病態生理、治療
講義3 13:00～14:30	糖尿病患者のフットケアのためのアセスメント①	足病変を予防するために、足の状態、生活状況、セルフケア状況を理解し、患者のおかれているリスクを考える	1. 足の状況 (1)皮膚の状態： 足のよごれ、皮膚損傷の程度、皮膚疾患の状況、爪の状況、浮腫など (2)神経障害： 自覚症状 ツールを使ったアセスメント(モノフィラメント、音叉など) (3)血流障害:観察項目 検査 2. 全身状態 (1)皮膚の損傷の原因となる足の状況:姿勢、歩き方など (2)身体防御機能の低下に関わる身体状況： 高血糖、低栄養、免疫力低下など (3)セルフケアに影響する身体状況:視力低下、運動機能低下など 3. 生活状況 (1)リスクとなる靴を履く仕事や趣味 (2)足の圧迫やずれを増す生活状況 (3)足の血流障害を起しやすい生活状況 (4)足の清潔が保ちづらい生活状況 (5)危険が及びやすい生活状況 4. セルフケア状況 フットケアに対する理解、足への関心、足の問題に関する経験、清潔習慣、サポートパーソンの有無
演習1 14:40～16:10	演習1 糖尿病患者のフットケアのためのアセスメント	糖尿病患者へのフットケアのための評価方法を学ぶ	演習1 1. デモンストレーション ①足の観察 ②神経障害と血流障害の把握(タッチテスト、アキレス腱反射の有無、足背動脈の触知) ③靴の観察 2. 2人ペアになって足の観察、神経障害、血流障害の程度を把握し生活状況とセルフケア状況を確認する。
演習2 16:10～17:40	演習2 事例分析と評価① (グループディスカッション まとめ)		演習2 1. 事例の説明 2. 事例に対してのリスクの評価と問題点の抽出(グループディスカッション)
講義4 17:40～18:10	糖尿病患者のフットケアのためのアセスメント②	リスクの評価と問題点の抽出方法を理解する	リスクの評価と問題点の抽出方法の解説
2日目 講義5 9:00～11:00	フットケアの実際～予防のためのセルフケア支援	糖尿病患者のおかれている状況やリスクの評価を素に、その患者に適したフットケアの実践ができ、セルフケア支援に繋げることができる	1. 予防のための方法 (1)清潔を保つ (2)乾燥を防ぐ (3)蒸れを防ぐ (4)圧迫、ずれを避ける(靴、靴下の選択) (5)血流を保つ (6)危険を避ける 2. 足病変悪化予防のための方法 (1)胼胝・鶏眼のケア (2)爪(爪の肥厚、陥入爪)のケア (3)白癬のケア 3. セルフケア支援のためのポイント
演習3 11:10～12:40 13:30～14:00	演習3 事例分析と評価② (ケア計画立案 まとめ)	糖尿病患者へのフットケアの技術を学ぶ	演習3 1. グループディスカッション-ケア計画立案 2. 発表 3. 総評
演習4 14:00～15:00	演習4 フットケアの実際①		演習4 1. デモンストレーション (1)患者の足を見る・触れる (2)アセスメントをする (3)必要なケア内容を検討する (4)処置を行う ①ノンデ・鋭匙の使用方法 ②ニッパー、ヤスリによる爪のケア ③コーンカッターの使用方法 ④レデューサーの使用方法 ⑤保湿 (5)セルフケアに向けての支援
演習5 15:00～17:00	演習5 フットケアの実際②		演習5 1. 演習一ペアになって行う (1)患者の足を見る・触れる (2)アセスメントをする (3)必要なケア内容を検討する (4)処置を行う-ノンデ・鋭匙の使用、ニッパー・ヤスリかけ (5)セルフケアに向けての支援
講義6 17:10～18:10	糖尿病重症化予防におけるフットケアの評価と今後の課題	糖尿病重症化予防におけるフットケアの評価と今後の課題を理解し、予防的フットケアを実践するためのチーム及びシステム作りを考える	1. 平成20年度診療報酬における糖尿病重症化予防(フットケア)の位置づけ 2. 予防的フットケアを実践するためのチーム医療及びシステム作り